

豚熱・アフリカ豚熱対策に係る緊急申入れ

野生いのししの豚熱感染が拡大する中、本年9月、群馬県のワクチン接種農場で豚熱が発生した。豚熱の終息に向けては、農場の飼養衛生管理の向上、野生いのしし対策の強化、適切なワクチン接種に息長く取り組む必要があることから、国においては、今回の事例を総合的に検証し、新たな発生防止に向け、対策の見直し、強化を図るとともに、持続可能な体制を構築することが求められる。

また、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のために実施されてきた入国制限の緩和に伴い、国際的な人の往来が活発になることから、アフリカ豚熱の国内侵入に備え、水際対策の徹底が必要である。

このため、以下の事項に早急に取り組むよう、強く申し入れる。

- 1 ワクチン接種の空白期間が生じないように、接種都府県が行う免疫付与状況検査結果を踏まえ、より適切な接種時期などの方針を早急に示すこと。
また、都道府県の管理下に置かれる民間獣医師による接種を可能とするなど制度の改正を行うこと。
- 2 野生いのししの感染拡大に伴いワクチン接種地域が拡大し、種豚供給に支障が出るなど全国的な営農に影響が及ぶことも見据え、予め対応策の検討を行うこと。
- 3 野生いのししの豚熱撲滅に向けた具体的な行程を示し、必要な予算を確保するとともに、経口ワクチンの内製化に向けた取組みを加速すること。
- 4 アフリカ豚熱の国内侵入に備え、一層の水際対策の強化、徹底を図るとともに、農場の飼養衛生管理の更なる強化を図るための施設整備等に対する継続的な財政支援をはじめとした支援策を充実すること。

全国知事会CSF対策PT チームリーダー

岐阜県知事 古田 肇